



KUMA VILLAGE  
MASTER PLAN

# 未来へ の提言

# 未来への提言

第6次球磨村総合計画（後期基本計画）の策定にあたっては、役場の若手職員の意見・アイデアも計画に反映させたいとの考えから、「総合計画策定に向けた球磨村復興未来トーク」を実施しました。

復興未来トークでは、若手職員が村の課題と向き合い、それを解決していくための様々なアイデアを短期目線、中長期目線で提案していますが、ここでは「将来に向けて一定の期間をかけて進めるべきこと、10年・20年先を見据えた考え」を整理し、自らが理想とする球磨村の姿を実現するために今後取り組むべきことを「未来への提言」として掲載します。

## 1 協働による地域づくりについて

### (1) 現状と課題

令和2年7月豪雨以降、村の人口減少と高齢化が加速しており、将来的には行政区・班や、地域組織の維持が困難になることが予想される。

### (2) 理想の将来像

住まい・産業・文化・行政機能などを集約したコンパクトシティ※1を形成することで、生活利便性の向上とともに、地域コミュニティの維持、インフラ施設の維持管理及び行政サービスの効率化を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

#### コンパクトシティ形成に向けた検討

- 1 村全体でコンパクトシティへの理解を深めるため、役場内で研修を実施するとともに、住民への情報提供から着手する。その後、住民意向調査や計画策定に向けた検討を進める。

## 2 効率的な行政運営の推進について

### (1) 現状と課題

役場の事務手続きは、押印手続きが多い・文書の保存年限がわかりづらい・キャッシュレス決済が使えないなどの課題があり、職員負担が多い状態。今後、DX化・公文書の電子化・行政事務のAI※2化は現在より進むものの、これらの導入に向けた業務量の増加に伴い、職員の負担がさらに増加することが考えられる。

### (2) 理想の将来像

デジタル技術を最大限活用しつつ、無駄を省くことで「ゆとりある行政運営」を実現するとともに、生まれた時間を住民福祉に充てることで住民にとって親しまれる役場を目指すため、【住民・役場みんなでスマートデジタル化！「球磨村まるごとデジタル化事業」(球磨デジ)】を実施したい。

### (3) 取り組むべきこと

#### DX化の推進

- 1 DX専門員の民間登用や電算担当職員の増員などの体制整備を行い、各種手続きのオンライン化を検討する。

#### 電子決裁の導入

- 2 先事例を調査するとともに、全庁的なワーキンググループを設置し、電子化を推進すべき手続きの洗い出しを行う。

#### 住民向けスマホ教室

- 3 住民に公式ウェブサイトやLINEの閲覧方法を習得してもらい、最終的にはスマホ利用を習慣化するための球磨村アプリ（健康・防災・買い物支援・デマンド※タクシーなど）を導入する。

## 3 健全な財政運営の推進について

### (1) 現状と課題

村財政の課題として、歳入に歳出が見合っていないこと、団体などへ交付する補助金や事業者への委託費が金額に見合う成果が得られていない場合があること、また、住民の村財政に対する関心も薄いことが挙げられる。今後、人口減少が進行することで、更に税収が減少することなどにより、様々な事業の遂行が難しい状況になることが懸念される。

### (2) 理想の将来像

自主財源が増えている状態を実現し、村民の村財政への関心度も高めたい。

### (3) 取り組むべきこと

#### 村財政情報の発信

- 1 広報紙で特集を組むことにより発信する。その際は、住民への伝わりやすさを意識し、家計簿の規模で表示するなどの工夫を行う。

#### 補助金等適正化委員会の設置

- 2 各種補助事業及び委託費の検証・見直しを行い、支出の無駄をカットする。

#### 大手企業や高額納税者の呼び込み

- 3 大手企業や高額納税者のニーズを把握した上、そのような企業・個人が進出できるような土地の調査・確保を進める。

※1 コンパクトシティ…住まいや商業施設、公共施設などの生活機能を集約化し、村内を公共交通機関等で結ぶことで、都市機能を持続可能なものとしていく取組のこと。

※2 AI…Artificial Intelligenceの略で人工知能を意味する。人間が知能を使ってすることをコンピュータにさせようとする技術。

※デマンド…利用者が予約をし、指定された時間に指定された場所へ送迎する交通サービスのこと。

## 4 農業の振興について

### (1) 現状と課題

担い手の高齢化、地理的条件（急峻な地形、狭小農地）を要因とする生産性の低迷などが課題である。今後更に高齢化が進むことで、担い手の減少→土地の荒廃→鳥獣被害の増加→土地の荒廃…という悪循環に陥る可能性がある。

### (2) 理想の将来像

高付加価値化・稼げる農業を通じて、希望を持って農業に取り組むことができる状態を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

	<b>氷温技術の活用・継続</b>
1	村を挙げてブランド化を進めるため、情報発信・研修会を実施するとともに、施設・設備投資に要する費用を補助することなどの支援を行う。
	<b>ほ場整備における地下パイプ網の整備</b>
2	水路の維持管理に要する負担が大幅に増加することを想定した取組。今後予定されている渡地区でのほ場整備から、地下パイプ網の整備を進める。

## 5 林業の振興について

### (1) 現状と課題

林業従事者の高齢化及び不足が進行し、適切に管理されない森林が増えることで、森林の荒廃や山地災害の危険性が高まることが想定される。

### (2) 理想の将来像

主伐と造林のバランスが取れた森林循環により、災害に強い山林が形成されている状態を目指し、林業事業者が不足することがない経営雇用体制を確立させたい。また、シカ被害の減少と捕獲した有害鳥獣を活用した特産品の販売を行いたい。

### (3) 取り組むべきこと

	<b>「森のしごと体験」の実施</b>
1	子どもの頃から森林を身近に感じてもらうための活動（伐採見学・植栽体験・森林教室など）として、森林組合とともに企画・実施するとともに、森林環境譲与税を活用して活動を支援する。
	<b>シカのブランド化</b>
2	加工品の製作ルートの確保から着手し、ペットフードや革製品などを特産品として売り出す。

## 6 商工業の振興について

### (1) 現状と課題

高齢化及び後継者不足により村内の商工業は衰退し、村外からの利用客も多いコンビニ及び公共事業に携わる建設業者以外の廃業が増えていくと思われる。

### (2) 理想の将来像

「各地域に1箇所は生活用品を買える店がある」「移動販売がある」「特産品の取扱店がある」ことで、全ての生活者が食料品・日用品にアクセスできる状態を実現したい。また、村内事業者のDX化やDX関連企業の進出により村の課題解決が進み、さらなる企業進出につながる状態を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

	<b>宅地整備と併せた商業施設（店舗）の誘致</b>
1	官民連携事業（役場は事業計画策定・事業者出店補助・インフラ整備を担う）として実施。人口集中地区を設けることで企業誘致を有利なものとし、併せて働く場の確保も目指す。
	<b>道の駅の整備</b>
2	国道沿いに道の駅（飲食店、特産品の販売所）を整備する。

## 7 観光の振興について

### (1) 現状と課題

球磨村の知名度は低く、どこにあるのかわからないと思う人も多い。また、球磨村を訪れようにも、JR肥薩線の運休により、村へのアクセス手段が乗用車に限られることから、観光地としての選択肢から外れる状態。今後、観光客数の低迷→施設・スポットの質の低下→観光客数の低迷…という悪循環に陥り、交流人口も少ない地域となるおそれがある。

### (2) 理想の将来像

旅行先として選ばれる「観光地」を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

	<b>棚田展望所の設置</b>
1	補助金を活用しながら、看板の設置から着手。現地でQRコードを読み込むことで、棚田の解説をVR※で見られるなどのアプリ開発も視野に入れて取り組む。
	<b>観光アプリの開発</b>
2	①混雑・道路・天気情報の提供による周遊促進、②VRとGPSを組み合わせた村をめぐるVR観光（解説・歴史・妖怪）、③旅行プラン・マップ・ジャンル別ルート・予約などの観光行動を支援するアプリを開発・提供する。

※ VR…Virtual Reality の略で、コンピュータによって生成された仮想環境を体験させる技術のこと。

## 8 交通安全対策について

### (1) 現状と課題

高齢ドライバーの増加による交通事故の増加が懸念される。

### (2) 理想の将来像

他の移動手段があることで、高齢者が運転する必要がない地域を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

- 1 **高齢ドライバーに免許返納を促す取組の推進**  
免許返納後も生活に不自由することがないように、住民ニーズに応じたコミュニティバスの運行体制を整備する。

## 9 地球温暖化対策の推進について

### (1) 現状と課題

村として脱炭素に向けた各取組を進めているものの、村の取組が地域・家庭にどれほど浸透しているのか不明。

### (2) 理想の将来像

地域・家庭に「地球温暖化対策」「脱炭素に向けた取組」が浸透し、行政・住民・企業が一体となって地球温暖化対策を推進する体制を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

- 1 **子どもへの環境学習**  
義務教育学校の教育課程において、環境（SDGs も含む。）に関する学習時間を学年ごとに導入・実施する。
- 2 **各家庭への再生可能エネルギー普及促進活動**  
各家庭において再生可能エネルギーが使用されるよう情報発信及び啓発活動を実施する。併せて、導入家庭へのインセンティブ※付与も検討する。

## 10 健康づくりの推進について

### (1) 現状と課題

国民健康保険被保険者などを対象とした特定健診において、血圧及び血糖値などの数値で県内ワースト5に入っている状況。今後、高齢化が加速する中で、老々介護や独居の増加、更に要介護4、5の住民が増え、在宅生活を送ることが困難になると想定される。

### (2) 理想の将来像

若者から高齢者までの全世代が健康で長生きし、幸せを感じる生活を実現したい。

- 1 **フィットネスマシンの利活用促進**  
夜間や休日にも使用可能となるよう環境を整備したうえ、民間事業者への管理委託を検討する。
- 2 **健康ポイントアクションのさらなる推進（特典付きなどのインセンティブ付与）**  
健康教室、サロン、フィットネスジム参加者にポイントを付与する。参加者が増えるよう、貯めたポイントと交換できる特典（商品券・入浴券など）を充実させる。

## 11 生活・介護・就労支援の充実について

### (1) 現状と課題

既に介護業界の人手不足が深刻な状況であり、近いうちに高齢化率は50%を超える見込み。今後、超高齢社会を迎える一方で若年人口が減少し、介護負担がますます増えることが予想される。

### (2) 理想の将来像

どんな人でも住み慣れた地域で、自立した自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるような状態を実現したい。

### (3) 取り組むべきこと

- 1 **球磨村に必要な事業所とその構想づくり**  
働く場、活動できる場やサービスを必要とする高齢者や障害者が安心してサービスを受けられるような事業所の整備・仕組みを構築する。計画審議会において構想を議論することから着手し、審議会で得られた様々な視点からの意見を計画に反映させる。
- 2 **福祉についての理解を深めてもらうための取組**  
老若男女問わず楽しく参加でき、福祉の見識を広めることができる「福祉フェスティバル（福祉体験コーナーの設置など）」を開催する。

## 12 子育て支援の充実について

### (1) 現状と課題

子育て世代の世帯数及び子どもの出生率ともに減少しており、今後、子どもが一人もいない地域が増加することが予想される。その結果、子育てに関する施策が無くなる可能性や、村内保育園の運営が危惧される。

### (2) 理想の将来像

子育てしやすい村、子どもたちと地域の交流が盛んになり、Uターンや移住定住がしやすい村を実現したい。

※インセンティブ…「動機」「刺激」の意味。この項目においては、限られた地域内での経済の活性化を目的として、商品券や決済システムなどにプレミアムを付けたポイントの還元を行う取組のこと。



(3) 取り組むべきこと

1	子育て世帯転入の際の助成金の支給 移住者支援策と連携して実施。移住者が子育て世帯の場合、助成金を拡充する。
2	習い事助成金の創設 幅広い習い事を対象とするが、どの範囲を習い事とするか検討が必要。

**13** 学校教育の充実について

(1) 現状と課題

子どもの数の減少により複式学級が生じ、また、児童生徒の8割がスクールバス通学のため、運動機会が減少している状況。児童数が減少することで、社会生活における経験値が少ない子どもの増加及び運動機会の減少に伴う運動能力・基礎体力の低下が懸念される。

(2) 理想の将来像

「村全体が学びの場／安全・安心の場」である教育環境を実現したい。また、球磨村独自のICT教育により、子どもたち全員がプログラミングなどのIT技術を獲得し、グローバル社会に強い子どもを育てる教育を実現したい。



(3) 取り組むべきこと

ICT事業（プログラミング教育）	
1	小学校1年生からICT機器に触れる機会を提供し、学年ごとに設定した目標を達成するというカリキュラムを整備する。
2	社会体育へ移行した部活動の充実 部活動の受け皿を整備し、児童生徒の体力向上を図る。
3	学校応援団による学校行事支援 現状の支援体制（児童生徒と地域住民のかかわり）を維持する。

**14** 文化の振興について

(1) 現状と課題

各地域の伝統芸能では後継者が不足し、多くの伝統芸能の消滅が危惧される。また、地域で維持管理している文化財についても、維持費などの捻出が厳しい状況。

(2) 理想の将来像

伝統芸能を継承する仕組みが構築され、伝統芸能・文化に触れる機会が増えている状態をつくりたい。また、村の文化財などの魅力が発信されている状態を実現したい。



(3) 取り組むべきこと

1	伝統芸能のデータ保存 各団体とともに推進。以前のデータ整備から着手する。
2	文化財マップの作成 村外に向けて発信する情報を精査するための調査から着手する。